

品質“日本一”レタス目指して

これまでも、これからも。組合員 地域とともに30年②

〈企画・制作／静岡新聞社地域ビジネス推進局〉

森町の南部。毎年12月になると、見渡す限りレタス栽培のビニールトンネルが広がり、日の光に輝いて「銀の波」と呼ばれる絶景を生み出しています。「森町の冬の風物詩として親しまれているんですよ」と話すのは、就農17年になる森一弥さん。JA遠州中央レタス部会の部長でもある森さんに、森町特産のレタスについてお話を聞きました。

—この地域のレタスの特徴というところ？

森さん 葉がみずみずしくて柔らかく新鮮、シャキシャキしていることですね。そのために行っているのが「若採り」といって、収穫のタイミングを早めること。その分、鮮度が長持ちしてシャキシャキ感が長く楽しめるんですよ。出荷先は、その多くが東京を中心とした京浜方面。冬レタスの品質では、

「JA遠州中央のレタスが日本一」と言われるほど、市場関係者から高い評価をいただいています。



晩秋の森町、冬レタスの生育が進み、色鮮やかなグリーン畑が一面に広がっている

—高い品質を生み出す秘訣は？

森さん 一つは育て方ですね。雨が降ってもレタスが沈まないように、高いうねを作って水はけをよくします。また、地元の米農家と畜産農家が連携して、良質な堆肥作りに取り組んでいることもその一つ。まずは、米農家が畜産農家に稲わらを提供し、牛の餌にします。畜産農家は牛のふん尿を「森の土づくりセンター」で堆肥に変え

ます。その堆肥が、安全・安心で高品質なレタスの生産に生かされています。このように有機資源の循環が行われています。さらに、温度管理も大切です。12月頃から霜や寒さよけのため、レタスの圃場をビニールで覆います。ただし、日中の日差しが強いときはビニールのすそを少し上げて換気をし、湿度や湿度の上がりすぎを防がなければなりません。そうしたき

め細かい作業も、レタスの品質を高める秘訣の一つになっています。

—他に、レタス栽培の特徴や工夫は？

森さん この辺りでは「水田」を有効活用してレタスを栽培しているのが特徴です。レタスの収穫後は、もう一つの町の特産であるトウモロコシを栽培するなど、計画的に輪作を行っています。また、生産者の高齢化が進み、年々レタス農家が減少する中、質だけでなく量的にも存在感を示そうと、静岡県内の6農協が「うまレタ。」という統一ブランド名でレタスを出荷。うまくて新鮮で高品質な静岡県産レタスを安定的に供給できるようにしています。

—レタスの選び方、おすすめの食べ方を教えてください。

森さん なるべく軽いものを選ぶことがポイントです。重いものは葉がびったり重くなって固く、苦味を感じることがあります。軽いものは巻きがふんわりとして葉が柔らかく、おいしく味わえます。保存はラップに包ん



冬の日に輝くレタス畑の「銀の波」

で冷蔵庫へ。レタスというと、サラダのイメージがありますが、加熱してもおいしいですよ。「レタスと豚肉のしゃぶしゃぶ」が私のおすすめです。

—最後に、今後の取り組みと消費者の皆さんへのメッセージをお願いします。

森さん 最近ではビニールなどの資材も肥料も価格が全般に高騰しています。例えば、それをまとめて購入することでコスト削減が図れないか検討を重ね、生産者が安心してレタスを栽培できるようにしていきたいと思っています。

今年も定植後、1か月ほど雨が降らず心配しましたが、水やりを何度も重ねることで挽回することができました。シーズンを通して、みずみずしくおいしいレタスをお届けできそうです。ぜひ味わってみてください。



JA遠州中央 天竜川東岸の3市(袋井、磐田、浜松市天竜区)と1町(森町)がエリアで、面積では遠州地方の約半分をカバーしている。山間部の北部地域は茶の栽培が盛んで、中央部から南部の平野部ではコマをはじめ、エイモ、白ネギ、レタス、チンゲンサイなどの中国野菜など、さまざまな作物が生産されている。

JA遠州中央の「レタス」

JA遠州中央の冬レタス栽培は、水田の収益力を上げようと、水稲の裏作として導入されたのが始まりです。昭和44年には森町が国の指定産地となり、栽培面積が拡大されていきました。その後、水田のレタス栽培にトウモロコシが導入され、水稲、レタス、トウモロコシの輪作が行われています。

現在、レタス部会の部会員は61人、作付面積は64ha、出荷目標を20万ケース(1ケース10kg)としています。JA遠州中央では、定植日からの平均気温を積算した温度で収穫の目安をつける「収穫日予測」を通知することで、生産者をサポートしています。

遠州中央のレタスは今(12月～2月)がまさに収穫の最盛期。生産者の皆さんが丹精込めて育てた旬のレタスをぜひ食卓へ!



市場から高い評価の
森町の冬レタス



森一弥 さん(62歳)

JA遠州中央レタス部会の部長。以前は建築関係の仕事に従事していたが、45歳のときに就農。レタスをはじめ、コマ、トウモロコシ、サツマイモの栽培を行っている。



磐田市見付 3599-1 本店・27支店・4営農センター・11店
【事業内容】 営農・購買・金融・共済・宅地等供給・加工・利用
<https://jaenchu.ja-shizuoka.or.jp/>